

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2795800164		
法人名	有限会社 サンビック		
事業所名	グループホーム サンビック2		
所在地	大阪府大阪市平野区加美北1丁目22番29号		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	令和5年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.sunbic-home.com/
----------	-------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、朝礼時に参加者全員で「運営理念」と「倫理綱領」「身体拘束の要約」を唱和し、運営理念である「ご利用者様一人一人の人生が輝くように」を念頭に置き、利用者様がその人らしい生活を尊重し、尊厳のある豊かな生活を送る為に何を必要とされているのかを把握しながら、その人に合った個別ケアを行い、一人一人の生活リズムを大切にしながら毎日楽しく過ごせるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元代表者が地元出身・地元で企業との関係から地域貢献への熱い思いで設立されて12年余、地域との交流も様々な形で行われてきたが、コロナ禍の3年余は自粛を余儀なくされている。コロナ禍での幾多の困難が生じる中、殆どの職員が入職歴10年超という経験を活かしての個別ケアが、「ひとりひとり、みんな家族」のコンセプトの下に展開されている。入居以来の担当者が信頼関係を築き、日常の関わりの中での気づきを見落とさずに、また、転落・転倒を繰り返すことのリスクをどう軽減し乗り越えられるか、個々人に沿ったケアについてをフロアー会議で検討、様々な視点で考えてよりよいケアの形を作り出すとの努力を続けている。かかりつけ医(代表者の兄弟)による毎朝の訪問巡視は、職員の力強い応援となり、利用者・家族の大きな安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で「運営理念」「運営方針」「身体拘束の要約」を読み上げている。	運営理念「利用者一人一人の人生が輝くように」の下、その人らしい暮らしを尊重し・出来る喜び、自分らしさ、生き甲斐を大切に支援・心豊かで安らかな生活を提供・地域と協働、の運営方針を掲げ、朝礼時の読み合わせで日々の実践を振り返り、自らの親と共に過ごす気持ちで「ひとりひとり、みんな家族」を目指して努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在かコロナの為、主治医の指示に従い、人が集まる場所へは行かないようにしている。	コロナ禍前は、幼稚園児やふれあい喫茶での交流、町会との連携も盛んに行われていたが、中止を余儀なくされている。町会長・民生委員を通じてサンビック新聞を配布し、各種の介護相談に応じるなど、出来得る範囲で地域とのつきあいを継続している。規制緩和での運営推進会議を再開、幼稚園児・ふれあい喫茶との出会いを切望している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けてグループホームの説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて利用者の状況報告、困難事例について検討している。(現在はコロナの為書面で)	令和2年後半より実質会議を書面による報告とする形式とし、構成メンバー(町会長と副・民生委員・包括支援センター職員)と全家族に、入居者状況、事故報告、行事報告、行事予定、感染防止策などを文書で送付している。入手した意見等は次回文書に掲載し、構成メンバーの各階リーダーを通して職員に到達している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と定期的に連絡をとり協力関係を築いている。	業務に関しては市の高齢福祉課との連携があり、公的扶助者在籍(約6割)により、生活支援課やケースワーカー、担当訪問者との連絡・連携は欠かせないとしている。コロナ感染に関しては保健所・福祉局と、入居相談等は地域包括支援センターとの関係を保持している。業種関連の連絡会は、休止状態である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、精神的拘束をしないケアをしている。	身体拘束適正化委員会は運営推進会議と並行して実施(2ヶ月毎)していたが、運営推進会議が書面開催となり、令和3年9月以降は実施していない。身体拘束適正化の指針を基にした4条からなる指針の要約を毎朝礼時に読み上げ、拘束への認識を深化させている。転落・転倒等のリスクが高い人も居るが、多くの職員が職歴10年とする経験を活かしての介護計画とケアで対応し、センサー設置なしを継続している。	身体拘束適正化のための指針、第5条身体拘束等適正化委員会の1項と2項に基づいた委員会の開催についての工夫・検討と早期の会議再開を望む。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナの為研修に参加出来ないので、インターネット等で虐待について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「あんしんサポート」や「成年後見人」等の制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族様が理解出来るまで分かりやすく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月毎に行っている運営推進会議に参加して頂き、要望等があれば聞いて反映させていたが、現在は書面で行っている為、電話等で意見を聞き反映させている。	家族と事業所双方が、面会時での話し合いの機会を失っているが、入居当時から担当者がリスクも交えての暮らしの様子を記して毎月送付し、必要時に電話連絡するなど意見や要望を収集している。介護度に関わらず殆どの利用者が発信可能であり、多くは食事・買い物に関することだが、要望に応じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にフロアー会議を行い、職員の意見を聞く場を設けている。	コロナ禍で全体会議は中止状態だが、各フロアー会議(月1回・必要時)を全員参加で実施しており、日常的物品の要求やエレベーターのメンテナンスへの意見などがあり、各階リーダーで纏めての検討、解決を図っている。防災・苦情対応・衛生と感染・救急時対応などの委員会を同系のサンビック1と合同で開催して、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、気持ち良く働ける環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が定期的に研修を受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との連絡会には参加するようにはしているが、現在はコロナの為見合わせている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の要望を理解するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の困っている事を理解し、より良い関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談があった際に必要なサービスを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い協力し合って良い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用者様の状況を手紙で報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所がある場合は大切にしている部分を継続出来るようにしている。	コロナ禍の3年ほどは、知人・友人の訪問は勿論、馴染みの美容室や喫茶店、好みの店舗での買い物は諦め状態にある。2ヶ月ごとの訪問理美容と医師の毎朝の訪問、外部からの電話の取次ぎや携帯電話の手助けでの会話などが馴染み関係継続の大きな要素となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に会話やレクリエーションをし、コミュニケーションがとれるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、引き続き相談受付を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に添えるよう努めている。	殆どの利用者が意向表明が可能であり、担当者は日常での触れ合いで、今の、これからの思いをくみ取るよう努め、フロー会議で話し合っている。様々な人生歴への理解を土台にして、その人の自分らしさ・生き甲斐を大切に支援したいとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様との会話から今までの生活歴を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼や申し送りで情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケアカンファレンスを行い、意見を反映するようにしている。	フロー毎のカンファレンス、各階の計画作成担当者による月1回のモニタリングとアセスメント、利用者、医師、看護師も参加しての2ヶ月に1回の担当者会議、重度化に際しては家族参加を得ての随時の会議で計画作成と見直しを図っている。介護計画書を送付し着信を待って、担当作成者より電話で説明して了解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事を記入する事によってサービスの見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる	臨機応変に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域イベントへの参加を積極的に行うようにしていたが、現在はコロナの為中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と関係を築いており、適切な医療が受けられるようにしている。	利用者の2名を除くほぼ全員が、事業所の協力医をかかりつけ医としている。法人代表の兄弟が協力医療機関(クリニック)を開業しており、毎朝7時から事業所を巡回し、利用者の健康状態を確認している。協力医の内科は月1回、歯科は毎週の訪問診療がある。利用者の2人が、専門医(整形外科等)を受診しており、職員が同行支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあればすぐに相談出来るよう、利用者様の状態を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関と連携を取り情報交換が行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の希望を聞き方針を共有している。	入居時に重度化や終末期における指針を説明し、同意を得ている。終末期には、医師が利用者の現状を説明し、家族等の同意があれば、関係者がチームで看取りに入る。職員は、チームの中で看取りの心構えを行い、看取り後のミーティングで出来たこと出来なかったことを振り返り、グリーフケア(悲しみのケア)を行っている。前年度は3名を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを使用し、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行い、水害を含めた災害時の対応を学んでいる。	事業所の最も心配な災害は火災で、年2回避難訓練等を行っている。火災発生時には火元から離れた各階ベランダに避難し、救助を待つ助言を消防署から得ている。水害では、最上階(屋上の建物・庭園)に垂直避難する。近隣(ローソン、工場やマンション等)とは防災協力体制ができています。当面必要量の水・食料・介護用品の備蓄を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないような声掛けを心がけている。	プライバシー委員会を設け、職員が利用者の尊厳や誇りを損なわないよう、言葉づかいや排泄・入浴時の声掛け等に特に配慮している。家庭的な雰囲気や大事にしながらも、慣れ慣れすぎて不適切な言葉遣いなどがあれば、委員会で取り上げたり、職員同士で指摘し合ったり、施設長から注意ができる風通しの良い職場環境作りを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人が自己決定出来るよういくつかの選択肢を用意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々利用者のペースは変わるので臨機応変に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には訪問理美容を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月行われている手作り食事会で一緒に準備や片付けをしている。	業者から受入れたクックチル食材をキッチンで湯煎のうえご飯や汁ものを作り、利用者提供している。週1回は「手作り食事会」として、昼食時に利用者が好みの焼肉（裏庭駐車場で実施）、焼きそば、お好み焼きや地域馴染みの韓国料理などを、元気な利用者と職員と一緒に、準備し、調理し、食し、後片付けを行うなど、皆で食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア、義歯洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者様の排泄パターンを活かして、自立に向けた支援をしている。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、尿意の仕草などを観察して、適切な排泄の支援に努めている。寝たきりの利用者1名がおむつを使用のほか、布パンツの利用者が約1/3、残りがリハビリパンツ使用となる。夜間は、利用者の安眠を第一に配慮し、見回りと声掛けを行っている。ポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳や冷水を飲んで頂いたり、ラジオ体操で体を動かして頂いたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の体調に合わせ、気持ち良く入って頂けるようにしている。	利用者は、基本週3回入浴している。各階の浴室には一般浴槽が設置され、浴槽をまたげない利用者や重度化の利用者の場合も、複数職員の介助により浴槽に浸かり入浴を楽しめるよう支援を行っている。入浴剤の使用や季節湯(しょうぶ湯・ゆず湯)で、利用者が楽しめる支援にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の生活リズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を読み、利用者様が飲んでいる薬の内容を把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んで頂く、食器洗いを手伝って頂く等をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は時間を合わせ一緒に外出していたが、コロナの為現在は外出禁止中。	法人元代表と地域との永い交流の伝統から、コロナ禍以前に利用者は散歩や買物など外出の機会も多く、地域交流も活発であった。コロナ禍の現在は、大阪市や法人の指示に沿って外出支援はほぼ中止となっている。現在は、利用者が屋内のレクリエーションや花・観葉植物が置かれた屋上での外気浴を楽しむ程度となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る利用者様以外は「あんしんさぽーと」を活用する等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアーにある電話を自由に使えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日に合った温度調整をし、居心地良く過ごして頂けるようにしている。	廊下、浴室、トイレは、比較的ゆったりしているが、リビング・ダイニングは、建物の構造上手狭に感じるが、テーブルの配置などに工夫を凝らし、くつろぎの空間を創り出している。壁には、サンビック新聞、利用者の書道や桜の貼り絵を飾り、季節感を演出している。また、玄関から各階、屋上に至るまで花や植木・観葉植物が豊富に置かれ、都会での自然を演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置を考え、利用者様が思い思いに過ごせるような居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使って頂く等、気持ち良く過ごして頂けるよう心掛けている。	各居室には、ベッド、エアコン、たんす、洗面台、防災カーテン等が予め用意されている。利用者は、自宅で馴染みのテレビや家族との写真など自分好みの備品や仏壇を持ちこんで、自分らしい部屋づくりをしている。居室の掃除は、職員が行っているが、利用者も自分で出来る範囲で行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や風呂場やトイレがわからない利用者様の為に目印を設置している。		